

短 歌

【小学1年生・2年生】

準特選 水ぞくかんのおおきいしゃちがげんきよく

およいでいたよきもちよさそう

高宮小学校1年 グエンタムレナ

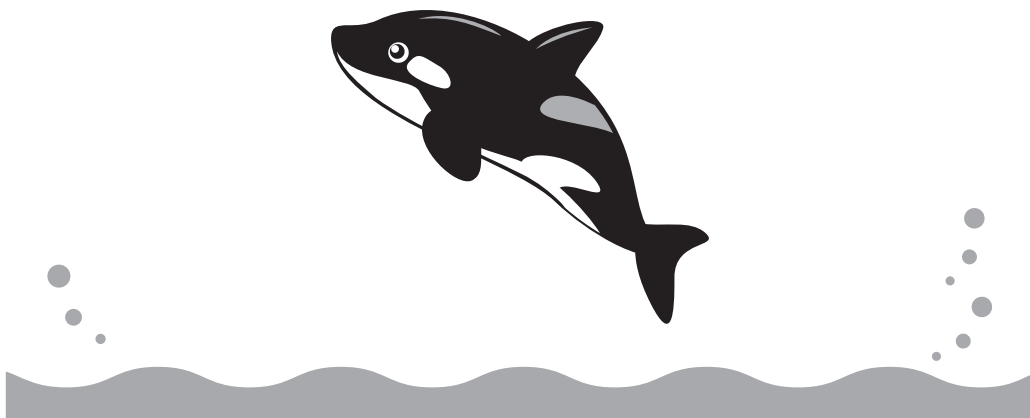
(評) 水ぞくかんで見たようすがよくわかります。おおきなしゃちにであえてきもちよさそうにみえたのをうたにしたのがよかったです。

(彦根文芸協会 西山 安子)

佳作 おもしろいふうせんとばす口の中

くうきをどっかんほっぺがふくらむ

城陽小学校1年 前田 真嘉



【小学3年生・4年生】

特 選 子ども会みんないっしょにシヨールを見る  
イルカのジャンプわたしもジャンプ

城南小学校4年 栗本 桜奈

(評) ショールが始まり、イルカが元気にジャンプしているのを見て、自分もがんばろうと思えたのでしよう。イルカといっしょのジャンプのたのしいようですがよく表現できています。

(彦根文芸協会 西山 安子)

準特選 バトンパスミスしたけれどがんばれた  
父の大声追い風になる

城南小学校3年 前田 茉帆侶

(評) リレーでしょうか。バトンパスをミスしたけれどお父さんが大声でおうえんしてくれ、落ち込む気持ちをささえられ、最後までがんばれたんですね。「追い風」と表現したのがとてもよかったです。

(彦根文芸協会 西山 安子)

佳 作 持きゅうとび前とび二分とべたんた  
三年生はめぎせ三分

金城小学校3年 尾本 愛理

佳 作 ドンドクン心ぞうの音大太鼓  
ぼくの歌声みんなにひびけ

高宮小学校4年 近藤 優有

入 選 たのしいとじかんがはやくすぎてゆく  
おとまりかいはできるといいな

若葉小学校3年 荒尾 侑愛

入 選 里いもはゆでるとスルツと皮むける  
コロツケにしてお腹いっぱい

佐和山小学校3年 大前 香穂

【小学5年生・6年生】

特 選 衣替え今までと違う服を着る

お家を変えるヤドカリみたい

稲枝東小学校6年 岩崎 奏汰

(評) 季節が変わると半袖を長袖にしたり、薄着から厚手の服に変えます。その様子は、ヤドカリのようだと言った発想がとても良かった。自分の思いを上手に表現できました。この歌を読んだ人の心に響くものがあります。

(彦根文芸協会 河分 武士)

特 選 わすれない甲板でみたうみのこの

ぼくらの旗ときらめく朝日

城東小学校5年 久木 柊乃丞

(評) 体験学習のための船に乗った時に自分の感じたことを「うみのこ」、「ぼくらの旗」、「きらめく朝日」と具体的な言葉で表現できたのが良かった。このように思い出を歌にして残すと、後になってもとても良い記念となります。

(彦根文芸協会 河分 武士)

特 選 彦根城坂がきついよがんばった

琵琶湖もみたよ景色がきれい

城南小学校6年 山中 亮太

(評) 彦根城は山の上にあつて、坂道を登りきると、喜びと同時に、高所から見える琵琶湖や彦根の城下町など美しい景色が待っています。頑張つて登つたので達成感があり、景色は一層美しく見えた様子を上手に表現できました。

(彦根文芸協会 河分 武士)



準特選

親友の太陽のようなその笑顔  
この先もずっと続きますように

金城小学校6年 櫻井 ことみ

(評)

子どものころから仲良しの友だちをつくっておくと人生が楽しくなります。いつもここにこしている友だちを大事にしたい気持ちがよく現われています。これからの人生に希望を持って明るく生きてください。

(彦根文芸協会 河分 武士)

準特選

こんにちははあいさつをしていい気持ち  
えがおはじてみんなハッピー

金城小学校6年 堀口 菜々子

(評)

子どもでも大人になっても、人間はあいさつがとても大切です。あいさつをするとうれしく笑顔になって、気分がよくなり、みんな幸せになります。人生は色々ありますが、今の気持ちを忘れないよう頑張ってください。

(彦根文芸協会 河分 武士)

準特選

声を出し気持ちをそろえさあ行くぞ  
六年最後の応援合戦

金城小学校6年 岩井 美侑

(評)

団体生活のなかに、みんなで力を合わせることを学んだことはとても良いことです。小学校最後の大会に、悔いの無いように力を合わせ「さあ行くぞ」と応援合戦の声が聞こえる、明るくて良い歌です

(彦根文芸協会 河分 武士)

準特選

失敗は悔しいけれどいい学び  
経験生かし次につなげる

城北小学校6年 田邊 俊

(評)

人間はだれでも自分の思うようにしたいのですが、なかなかそうはいきません。失敗の悔しさをバネにして成功した人はたくさんいます。どんな失敗かわかりませんが、明るく前を向いてがんばってください。

(彦根文芸協会 河分 武士)

佳 作 冬が来た家族で机を囲もうよ

今年も鍋がおいしい季節

稲枝東小学校5年 吉村 旭

佳 作 秋が来た秋は食べたい栗ごはん

わたしが大好きお母さんの味

金城小学校6年 諸川 晴

佳 作 運動会バトンをつなぐそれと共に

深まる絆とクラスの団結

金城小学校6年 右近 武琉

佳 作 ありがとうこの言葉はね魔法だよ

だってみんなが笑顔になるから

金城小学校6年 岡田 楓花

佳 作 とおり道地いきの人とこんにちは

あいさつをしてにっこにこだね

城東小学校5年 栗田 仁香

佳 作 パーティに招待されてハロウィンだ

みんな仮装でもりあがろうよ

城東小学校5年 伊吹 颯星

佳 作 誕生日みんなで祝い楽しいな

忘れたくないこの思い出を

平田小学校5年 瀧 駿成



入選 たのしみはやることをやりあきじかん

しずかにひとりほんをよむとき

稲枝西小学校6年 黒澤 直

入選 かけがえない人の命を大切に

戦争よりも人助けせよ

金城小学校6年 片山 惺志瑛

入選 ありがとう父さん母さん今までの

これからの命つなげていくよ

金城小学校6年 片山 勇

入選 いよいよだ音楽会の本番が

最後の成果をみんなに見せる

金城小学校6年 林 亜操

入選 秋の風気持ちいいのでやる気出る

落葉が散ってきれいな月だ

金城小学校6年 西村 陸

入選 タンポポの綿毛見せたくふうと吹く

愛犬びっくりクシヤミをかえす

佐和山小学校5年 大前 さくら

入選 秋の空オレンジ色がしみわたる

心もそまるきれいな夕日

城東小学校5年 宮川 莉緒

入選 秋の葉のもみじやいちょう綺麗だな

落葉を踏むとパリパリ聞こえる

城北小学校5年 秋末 菜緒

入選 音楽会みんなで協力ががんばるぞ

息ぴったりの最高の会

城北小学校5年 大竹 紅怜愛

入選 休みの日家族みんなでトランプだ

どれがジョーカードキドキするよ

城北小学校6年 杉本 紘一

入選 もみじのきもみじがおちるひらひらと

もみじがおちておれんじのみち

城北小学校6年 大森 紗良

入選 いつまでもあると思わぬ万物よ

わが人生に彩りをくれ

平田小学校6年 高田 颯矢



入 選 不 思 議 だ な 風 は 見 え な い 葉 が ゆ れ る

風 は ど こ へ い く 雲 が 流 れ る

若葉小学校6年 志萱

大誠

【中学生】

特 選 ビー玉にとじこめられた青色は  
この夏おきたおもいでの色

南中学校3年 中清水 初奈

(評) ビー玉にとじこめられた青色、作者の心にもそっと閉じ込めておきたいすてきな夏の思い出の色。夏の真っ青な空、青い海、二度とない青春の思い出も読みとれます。しっかりとまとまっています、とてもよい短歌だと思えます。これから短歌を詠み続けてください。

(彦根文芸協会 森 典子)



準特選 いつまでも平和な世界思い浮かべ  
戦争よりも笑いあいたい

鳥居本中学校1年 岩崎 杏桜

(評) ミャンマー、ウクライナ、中東、アフリカ世界のあちこちで紛争が起こっています。作者は報道による悲惨な光景に胸を痛め、平和な世界、戦争の早い終決を願っています。「戦争よりも笑いあいたい」に気持が表現されていてよい作品になりました。

(彦根文芸協会 森 典子)

準特選 ぐんぐんと未来へ進む夢めざし  
大空向かって飛べたらいいな

稲枝中学校1年 林 新

(評) 初句の「ぐんぐんと」が後の「未来へ進む、夢めざし、大空向かって」のすべてにかかり効いていて明るく力強い作品になりました。夢は何か。夢をめざし未来へ大きく羽ばたいていってください。

(彦根文芸協会 森 典子)



佳作 暑いけど夜に外出て見た星に

暑さ吹き飛ぶ天の川あり

稲枝中学校1年 上田 英祥

佳作 紅葉の落ち葉の布団寝ころんで

見上げた空と秋風かおる

鳥居本中学校3年 小山 穂乃香

佳作 家族との平和な日々がこれから

続くといいなずっとずっと

鳥居本中学校1年 岩噌 清奈

入選 窓開ける暑さとセミの鳴き声が

一気に満ちて夏始まった

南中学校3年 堀田 梨央

入選 勉強に集中できないどうしよう

あなたのことを思い出すから

鳥居本中学校3年 岩崎 来羽

入選 ラケットと共に踏み出し深呼吸

一球一打に思いをのせて

稲枝中学校2年 金築 真帆

## 【総評】

コロナ禍がようやく過ぎてほっとしましたが、全体的に今年は去年より作品はかなり減少しました。一部の学年は増加もあり、皆さんの努力の結果、良い作品を見つけたいと、ていねいに拝見いたしました。

## 小学生

一・二年生、三・四年生とも大幅に減少しました。五・六年生の応募者は昨年より大幅に増えました。先生や家族の皆さんのアドバイスによって影響があるのかと感じます。子どもらしい視点から、日頃の体験や学校のこと、友だち、家族のこと、自分の「見たこと」「感じたこと」「楽しかったこと」「頑張ったこと」など、良い短歌がたくさんありました。

- その中で感じたことで、学校の先生や家族の方にもお願いしたいのは、
- ① 短歌は五七五七七のリズムが大切です。最後の言葉は七音で終わるように。最後の七が、五や六にならないようにしてください。
  - ② 作りかけの、短い文のままです出されたと思われる作品がありました。短歌には、作りっ放しではなく、推敲（見直し）が大切です。

## 中学生

昨年に比べて応募者は大幅に減少しました。いままで出していた学校の姿が見えないのは、学校の先生や家族の皆さんの影響があるのかと感じます。熱心に取り組まれた学校もあり、基本に忠実で、よくまとまっている短歌があったので救われました。中でも、五七五七七のリズムやストーリーがしっかりしている短歌に引き付けられました。

季節、部活、家族のことなど視点を考えた良い歌が多くあり、今後は更に多数の皆さんの参加による良い作品を見たいと期待しております。

## 短歌を作るのに大切なこと

- ① 今までに入賞となった作品、新聞や本に書いてあるような良い短歌をたくさん読んでください。
- ② 歌を作る時には「何を詠うのか」初めに「テーマ」を考えましょう。
- ③ 「〇〇を見て、私はどう思う」のパターンを大切にしてください。
- ④ 五七五七七のリズムを大切に。（最後の七が五にならないように）
- ⑤ 多くの作品を作り、その中から「これ」と思う自信のある短歌を選んで出すようにしてください。

短歌には、昔から脈々と引き継がれて来た長い歴史があります。大人になっても続けられるようにしてください。

（彦根文芸協会 河分 武士）